

# 多種多様、淡水魚たちの生態と生活史 淀川水系魚類名鑑

希少野生動植物保存推進員  
横山 達也

## ドンコ

*Odontobutis obscura*

釣り好きの人なら外道で釣れるハゼをドンコと呼ぶことが多いですが、今回紹介するドンコは、「ドンコ」という呼び名が日本全国共通の呼び名(和名)の魚です。漢字では、「鈍甲」や「貪子」、「鈍子」などと表現されているように、日中はほとんどじっとして動きませんが、夜間などに餌を食べる時は、目にもとまらぬ速さで、魚や昆虫などの餌を丸のみにする大食漢の肉食性の魚です。文献などでは、全長が25cmにも達



オスがメスを引きつける求愛行動の鳴き声は水槽の外にまで聞こえる

するそうですが、そこまで大きな個体は私も見たことがなく、全長20cm位のものが、私が見た最大の個体です。分類上は、スズキ目ドンコ科に含まれるハゼの一種で、ハゼの仲間では、一生を川や池などの淡水域で生活をおくるものは珍しいです。



国内では、中部地方から西の本州、四国、九州に分布し、国外では、韓国の巨済島のみに分布。近年、関東地方でも採集されていますが、放流によるものと考えられています。日本のドンコは、近年まで一種とされていましたが、遺伝的な研究の結果、複数の系統に分かれることが明らかにされ、島根・山口県産のグループがイシドンコとして独立した種として分けられ、その他のグループも将来、独立した種とされる可能性があります。繁殖期は4～7月で、オスが石などの下に巣を作り、メスを誘って産卵させ、オスは卵が孵化するまで保護します。この繁殖期のオスにみられる特有の行動は、「グググ」と鳴くことです。ぜひこのかわいらしい声を一度飼育して聞いてみてください。

under the water

the waterside

the sky & land

水辺の

## 虫眼鏡

川に棲む水生生物の魅力的な生態

環境省 環境カウンセラー 川島 大助

### カワゲラの幼虫

冬になって気温が下がり陸上で活動する昆虫たちの姿はほとんど見なくなる頃、水の中でも同様に水温が下がり、ほとんどの魚類は休眠状態で水中は閑散としています。しかし川底をよく見ると、小さな水生昆虫の幼虫は活発に活動しています。今回ご紹介するカワゲラ類は、幼虫期は水中で過ごし、成虫期は陸上で暮らす昆虫です。

カワゲラ類の特徴は、頭部、胸部(前胸、中胸、後胸)、腹部の部位が明瞭に分かれ、尾毛が2本です。同じ水生昆虫のカゲロウ類でも尾毛が2本の種類(ほとんどが3本)がいますが、体の部位がカワゲラほど明瞭に分かれていません。またカゲロウ類は腹部にエラがありますが、カワゲラ類は腹部にはありませんので、容易に見分けることができます。

カワゲラ類の生息場は種類によって様々ですが、その多くは河川の上流～中流域の清冽な水域で、流れの早い瀬の礫帯や流れの緩いところにある落ち葉溜まりの中などに生息しています。カワゲラ類の中には肉食性の種も多く、小型の水生昆虫等を捕食して成長します。従って、カワゲラ類が多く生息



凍てつく寒さの中でひっそりと育っていく水生昆虫の強さを観察したい



している川は餌(小型の水生昆虫など)が豊富に存在し、水生昆虫からみても良好な環境である指標にもなるでしょう。冬～早春(羽化前)は、カワゲラの幼虫のサイズも大きくなっています。長靴などで川に入り、浅瀬の石の裏側や落ち葉をタモ網で掬い上げると、成長したカワゲラを容易に見つけることができますよ!

the worst 100

## 花想鳥感

四季折々、  
水辺の生物多様性

芥川緑地資料館 主任学芸員  
高田 みちよ

### 鵜殿のヨシ

大阪平野は淀川と大和川が運ぶ土砂によって形成された沖積平野で、「豊葦原の瑞穂の国」と呼ばれていたほどの低湿地でした。それも今は昔。名残の一つが「鵜殿」です。鵜殿のヨシ原は淀川流域でも最大のヨシの群生地であり、野鳥や動植物の貴重な生息地です。昔から多くの歌人に詠まれていて、紀貫之の『土佐日記』にも記述があり、谷崎潤一郎の『蘆刈』の舞台が鵜殿のヨシ原とも言われています。鵜殿のヨシは宮内庁楽部で使われている箏篳(ひちりぎ)の吹き口として珍重されています。



生物観察に一度は訪れたい



豊かな生態系をうみだす貴重なヨシ原

しかし、天ヶ瀬ダムや南郷洗堰による水位調節により、淀川は水位の上下が少なくなり、堤防際にたまった土砂(高水敷)はどんどん高くなっていきました。その結果、高水敷の地面は乾き、半湿地を好むヨシに変わって乾燥地に生育するオギが増えました。最近ではヨシの復元のため、国交省により地面の切り下げがおこなわれています。鵜殿がいついっても工事中なのは、ヨシ原の復元のためです。危機的な状況にありながらも鵜殿のヨシ原は「大阪みどりの百選」、「関西自然に親しみ風景100選」に選定されている貴重な場所です。みなさんも夏には何万というツバメがねぐらをつくり、冬にはたくさんの猛禽類が舞い、春にはノウルシなどの貴重な植物が咲き乱れる鵜殿に、ぜひ遊びにきてください。

侵略的外来生物

## 淀川ワースト100

ヒメグモ科 セアカゴケグモ  
*Latrodectus hasseltii*

淀川管内河川レンジャー 石山 郁慧

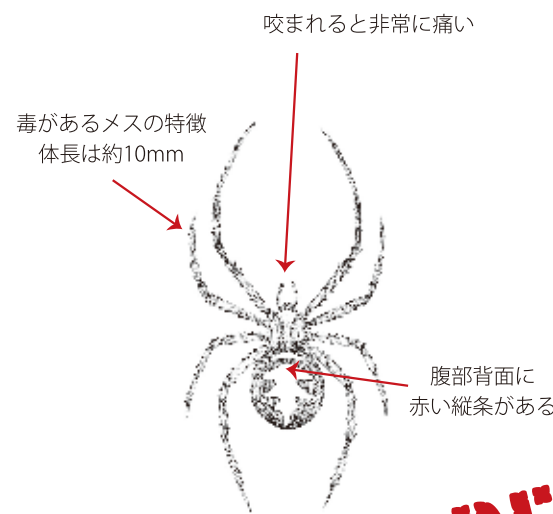


淀川河川公園で発見・駆除されたセアカゴケグモ



上記2点の写真提供 / 公益財団法人 河川財団

原産地はオーストラリア。平成7年に大阪府高石市で初めて発見され、現在は淀川流域の各地に分布しています。元来、攻撃性は少なくおとなしいクモなので、触らない限り咬まれることはありません。万一、メスに咬まれた場合、重症化すると死に至ることもあるそうです。メスに比べてオスは小さく、4～5mm程度で無害です。排水溝の側面やプランターと壁との隙間など、天井のある明るい場所を好んで巣を造ります。1回あたりの産卵は卵のうで3～5個、約500匹が生まれます。普段から生息しそうな場所をチェックするよう心がけておきましょう。もしクモの巣を見つけた時は、厚手の手袋などで除去しておけば、被害を避けることができます。



AN INVADER